

主要項目業績コメント

〇〇〇〇株式会社 第3期

資産及び負債・純資産の増減とキャッシュの関係(貸借対照表)

貸借対照表の残高について期首からの動きを見ると、流動資産において主な増加額は売掛金13,878千円、仮払消費税517千円となっています。次に固定資産等において主な増加額は建物11,482千円、主な減少額は車両運搬具△2,094千円、機械装置△720千円となっています。固定資産の増減のうち、減価償却費による減少が△3,927千円含まれています。流動負債において主な増加額は買掛金27,972千円、支払手形4,000千円となっています。固定負債において主な増減額は長期借入金が△4,118千円減少となっています。純資産においては、利益剰余金は、40,019千円増加していますが、その他の純資産及び資産・負債の増減により、現金・預金の残高は50,094千円増加しています。総資本(総資産)の金額は、73,091千円増加しています。これに対して純資産が40,019千円増加しています。自己資本比率から見れば期首は42.5%で、期末は45.7%になり、資本の安定度が高くなっています。短期支払能力を示す流動比率は137.5%、固定資産及び投資に対する資金調達のバランスを示す、固定長期適合率は59.0%となっています。(自己資本比率、流動比率の計算に割引手形及び裏書手形の金額は含まれていません。)

過去からの利益と資金の関係(資金別貸借対照表)

資金別貸借対照表は、創業時から留保してきた利益をどのように運用し、現金として残してきたかを示します。創業時から繰越してきた繰越損益等70,897千円と当期純利益40,019千円を合計した会社の損益資金は110,916千円となります。この金額が実質的に今まで企業活動を通して稼ぎ出して留保したお金です。次に固定資金から見ると、資金の調達である長期資金(固定負債)と資本金及び資本剰余金等を合わせて20,801千円となります。これに対し、固定的な資金の運用(棚卸資産・固定資産・投資等)に81,568千円使われています。調達から運用を差し引くと、固定資金は△60,767千円のマイナスとなります。次は売上仕入資金です。売上と仕入のサイト差によりどれだけ資金が不足(余剰)しているかを見ます。仕入債務141,747千円に対し売上債権は42,664千円とサイト勝ちしているので売上仕入資金は99,083千円のプラスとなります。ここまでの段階で資金が不足していないかを見るため、損益資金と固定資金及び売上仕入資金を合計すると149,231千円のプラスになります。この合計額を安定資金といい、安定資金がマイナスであれば、次の流動資金でつじつまをあわせることとなります。流動資金は調達から運用を差し引くと6,576千円のプラスとなります。最後に損益資金110,916千円に固定資金△60,767千円、売上仕入資金99,083千円、流動資金6,576千円を合計すると、現金・預金の残高が155,807千円となり、会社が稼ぎだしてきた損益資金と手元に残った現金預金の残高にプラス44,892千円の差があります。